

のない平和な未来を築いていくことが私たちの仕事だと思えます。

「やすらかにねむり下さい。あやまちばかりかえしませんから。」広島の平和記念公園にあるこの言葉を胸にききみこんで、これから生きていきたいと思えます。

## 平和

安良沢小六年

児玉梨江



私たちの平和は何なのかなあ、と考えてみると、なかなか考えつきません。それで、昔と今との生活のちがいを考えてみました。昔の話聞き、今の生活とくらべてみると、今は何不自由なくくらしていると思えます。戦争中は田や畑が荒れて作物がとれなかつたので、食べる物もなく、着る物もなく、親と別れて暮らさなければならぬことさえあつたそうです。私には、食べ物もなく着る物もない生活なんて考えられません。今は物が豊富でとてもいい暮らしが出来ます。それで、とても平和でいいなあと思いがちですが、実はそうではありません。こうと

う、殺人、交通事故、けんかなど数えあげたらきりが無いほど、悲しい出来事が毎日あります。これでは平和とは言えません。

けんかは小さな原因でおこります。ますます大きくなると最後には殺人になる可能性もあります。私たちの身の周りにもけんかは毎日のようにおきます。つまり、けんかはクラス、また、人の手によって森林をどんどん破か

いしてきます。これもやはり、平和ではありません。森林の自然をこわすのは、大人だとみなさんは思っていますか。野原に咲く花をむやみにつんでしまうこと、小さな生き物を殺してしまうこと、これらも自然破かいの第一歩なのです。私たちはこれらの平和をみだす原因を小さいながらも作っているのです。反対に言えば、小さな平和を守ることは、私たちの仕事なのです。

では、けんか、交通事故、自然破かいがなくなれば平和だと言えるでしょうか。それではまだ不十分です。なぜかと言うと、科学の発達にともなつて、たくさんのお害がおきているからです。私は五年生の時公害について勉強しました。四日市ぜんそく、水俣病、イタイタイ病の話聞いてとてもショックを受けました。小さな子どもまで病気にかけたり、命をうばわれたりしています。これも平和を乱す原因です。二十一世紀になる時、私たちは大人になります。平和な国をつくることは、私たちのこ

いと思えます。世界の平和を乱すのは戦争です。私たちが大人になった時には、世界中のどこにも戦争がないといいなあ、と思えます。また、私たちの手で、そういう世界をつくりたいと思えます。平和な世界をつくる第一歩は、私たちの身の周りにあるのです。友だちに思いやりをもつて接し、仲よくくらすこと、そういつた小さな平和が大きな平和につながっていくと思えます。

## 真実の平和

東中三年

古橋里実



「平和」という言葉、近頃ごく簡単に使われるようになったと思いませんか？誰もが分かりきっているかのように、「平和」の言葉を吐き捨てているような気がします。

「平和」とは、何なのでしょう。現在、戦争さえなければ、平和なのでしょう。私の今の人生は、多分平和だと思います。そのせいか、日本は、そして世界は、平和なのだと思っていました。自分が見える狭い視